

危機管理型ハード対策「法尻補強ブロック」に求められる条件

- 堤防法面植生の浸食耐力より強い補強材であること。
- 突起または窪み(粗度要素)を有する。
 - ①菱形 80mm 以下 ②矩形 100mm 以下 ③棒状 50mm 以下
- のり覆工:粗度により流速を低減する。
- 平場覆工:「水叩き」として確実に流れを水平に向け、「根固」として洗掘域を堤体から遠ざける。
- のり覆工は 2.0m 程度、平場覆工は 1.5m 程度。
- ブロック重量は掘削で取り除いた土の重量以上(重量を減らさないのを基本とする)
- のり覆工天端端部の洗掘の工夫(斜め小口止め)
- のり覆材の排水性を確保する。

法尻補強ブロック対応製品

なぎさ

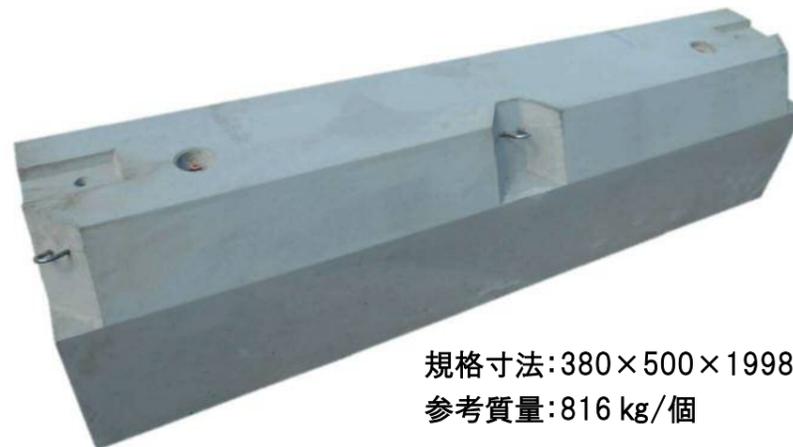


【基本型】

規格寸法:950×950×180mm

参考質量:202 kg/個

基礎ブロック(K ベース KR 型)



規格寸法:380×500×1998mm

参考質量:816 kg/個

- ◆堤防上、突起部以外を堤防内の設置に対応した断面が可能です。
- ◆法面および平場部を連結金具で連結させることで、フレキシブルな群体構造としています。
- ◆ブロック表面は矩形突起(10cm)として、越流水の流速を低減できます。
- ◆平場部は端部型を使用することで 1.5m を確保できます。
- ◆専用基礎ブロックを使用することで、現場打ちコンクリート打設が不要となり、工期が短縮できます。
また、なぎさとの連結ができ、一体性を持たせることができる専用基礎ブロックもご用意できます。(実用新案)

